

久しぶりに聴く佐藤の音色の変化に驚かされた。第1曲のラフマニノフ、冒頭を佐藤は、極めてやわらかい、脱力しきった音でひそやかに響かせる。まるで、窓を控えめに開けてそっと世界をのぞくように、そして見えた世界の不思議に驚くように。続いてラヴェル《亡き王女のためのパヴァーヌ》。佐藤が獲得した、核を持ちながらも柔らかさを極めた音色によって、この曲が品性のある悲しみとして、外面的な衣装を脱ぎ、美しく伝わってくる。彼は演奏家としての独自の音色を確立したと断言している。

後半のシューベルトのソナタにも無論、この音色は最大限に生き、息をひそめて世界を見つめるシューベルトの繊細さが感じられる。佐藤が新たに獲得した音色の魅力を、今後も聴き続けたいという思いを強く抱いた。

梅津 時比古(音楽評論家)



## 佐藤 彦大(ピアノ) Hiroo Sato, Piano

岩手県盛岡市出身。東京音楽大学付属高校、同大学器楽専攻ピアノ演奏家コースを経て、同大学大学院器楽専攻鍵盤楽器研究領域(ピアノ・エクセレンス)修了。鷺見加寿子、野島 稔の両氏に師事。ベルリン芸術大学において故エレナ・ラピツカヤ、モスクワ音楽院にてエリソ・ヴィルサラーゼの両氏のもと更なる研鑽を積む。

2008年、大学より奨学金を得て、ザルツブルク・モーツァルテウム国際サマーアカデミーに参加、終了時にディプロマを取得。09～12年度(財)ロームミュージックファンデーション奨学生、13年度明治安田クオリティオブライフ文化財団奨学生。

04年第58回全日本学生音楽コンクール高校の部全国大会、06年第1回野島稔・よこすかピアノコンクールで共に第1位、07年第76回日本音楽コンクール第1位、併せて野村賞・井口賞・河合賞を受賞、10年第4回仙台国際音楽コンクール第3位、11年第5回サン・ニコラ・ディ・バーリ国際ピアノ・コンクール(イタリア)第1位、併せて“F.Liszt 2011”特別賞、批評家賞を受賞。15年第21回リカルド・ピニェス国際ピアノ・コンクール(スペイン)第2位、16年第62回マリア・カナルス・バルセロナ国際音楽演奏コンクールで第1位優勝を果たす。

04年第14回日独青少年交流コンサートに出演、05年には招待演奏者としてドイツ各地での交流コンサートに出演。08年第17回国際音楽祭「ヤング・プラハ」にソリストとして出演。また09年には広上淳一指揮/東京音大シンフォニーオーケストラのヨーロッパ演奏旅行にソリストとして参加し、プラハとバンベルクで演奏。

11年東京文化会館小ホール、13年紀尾井ホール、16年浜離宮朝日ホールにおいてリサイタルを開催、新聞、専門各誌で高い評価を得た。12年1月には小泉和裕指揮/仙台フィルとの東北・ニューイヤーコンサートにソリストとして出演、またNHK-FM「名曲リサイタル」に出演。13年には紀尾井ホールでリサイタルを行い、好評を博した。14年9月第18回京都の秋芸術祭開幕記念コンサートにおいて広上淳一指揮/京都市響と共演。

12年9月デビュー CD「Hiroo Sato plays 3 Sonatas」をリリース、17年には「Hiroo Sato Piano Recital」をリリースした。

これまでにプラハ室内管、日本フィル、東響、東京シティ・フィル、京都市響、群馬響、神奈川フィル、仙台フィル、東京ユニバーサル・フィル、セントラル愛知響、千葉響等と、尾高忠明、小林研一郎、大友直人、広上淳一、小泉和裕、三石精一、飯森範親、梅田俊明、山下一史、渡邊一正、松尾葉子、茂木大輔、川瀬賢太郎の各氏らと共演。またNHK交響楽団首席メンバーと室内楽を共演。

宗次ホール主催の新作コンサートチラシを毎月自宅にお届けする

**宗次フレンズ 会員募集中!!**

宗次ホールは  
会員登録していただいた方に毎月無料で  
新作チラシをご自宅にお届けします。

**会員登録・年会費 無料**

詳しくは、宗次ホール (052-265-1715) までお問合せ下さい。

■交通アクセス  
地下鉄栄駅 ⑫ 番出口より東へ徒歩4分

くらしの中にクラシック

宗次ホール  
Munetsugu Hall

名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008  
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716  
E-mail info@munetsuguhall.com  
URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター  
営業時間:10:00～16:00  
※13:45以降に開演の公演がある場合は18:00まで営業  
年中無休(年末年始、施設メンテナンス日を除く)